



布施だより

《 旅立ちの日に ～「凡事徹底・・日常の積み重ねの中に」～ 》

*写真は 17 日に行われた「3 年生を送る会」からです。

卒業証書を手にした皆さんは、学校の顔となり、後輩たちの目標となる存在でした。

今年度、本校では凡事徹底を大切にしてきました。それは凡事徹底こそが自分の可能性を引き出し、目標や夢を叶えるための生き方であると考えているからです。

「特別なことをするために、特別なことをするのはではない。特別なことをするために、普段どおりの当たり前のことを当たり前にするのだ。」こう言ったのはあのイチロー選手です。彼はこんな言葉も残しています。「小さなことを重ねることが、とんでもないところに行くただ一つの道」

また、イエローハットの創業者である鍵山秀三郎さんは、こんな言葉で自分自身の人生を振り返り、自分の可能性を最大限引き出す生き方を教えてくれています。「今まで、誰にでもできる平凡なことを、誰にもできないくらい徹底して続けました。そのおかげで、平凡の中から生まれる、大きな非凡を知ることができました。」

心と行為はつながっています。日常の小さな一つ一つのことを大切にすることというのは、自分の内面を整え、育み、豊かにすることでもあります。そして、日々こうしたことを積み重ねていくことで、夢実現の道が開かれていくのだと思います。

物事に真心を込める誠実さ、感謝の心、謙虚さ、他者への思いやり、ぜひこれらをいつまでも失わずに持ち続けてください。このことが必ずや、皆さん一人一人の人生の節目、節目に、皆さんを明るい未来に導き、幸せな人生をもたらしてくれるはずです。

平成 27 年 3 月 19 日 篠ノ井西中学校長 西澤道生 ～「卒業証書授与式 学校長式辞より」～



《 これぞ篠西中の清掃です！ 》

5・6 時間目の授業が終わると、毎日 15 分間 清掃の時間になります。生徒諸君は手ぬぐいをかぶり、廊下に着座して全校一斉に黙想を済ませてから、清掃分担に移動します。全校清掃の開始です。

ほうきの先を器用に扱い、ほこりを掃く生徒がいます。床に膝を着き、黙々と床磨きをしてくれる生徒がいます。黒板受けのチョーク粉を小ぼうきでまとめ、黒板拭きで筋が残るほどきれいにしてくれる生徒がいます。両手でガシッとつかんで机を丁寧に運んでくれる生徒がいます。外掃除では、大きなゴミ袋を持ち軍手をして、校地外まで出てゴミ拾いをしてくれる生徒がいます。職員玄関では冷たい水をものともせずギュッと絞った雑巾でタイルを磨いてくれています。

その黙々とした姿勢たるや、それは実に見事なものです。用事があって校舎内を移動する時など、廊下や階段を行き来するのさえはばかれるほどです。1、2 学期の頃は、清掃に取り組んでくれてはいるのだけれど、もうひとつかなあという感触だったのですが、3 学期の清掃は違います。ひとりひとりの表情が違います。掃除をしているんだっ！という確かな意思が伝わってきます。

そして互いの誠実な取り組みが良き相乗効果を生んでいます。隣の仲間がひたむきに床磨きに向かっている横で、手を抜いているわけにはいかなくなります。訪れる春の別れと出会いを前に、校舎に生徒諸君の魂と誇りが込められていくようです。

ある日の「生活ノート」を紹介します。トイレ掃除を分担してくれている生徒の感想です。

～掃除の時間に、個室の床も磨きました。真っ黒で何度こすってもあまり汚れが取れませんでした。な



ので毎日頑張りたいです。隣の個室掃除をしていた友だちが、「見て！見て！」と言ってきたので、何かな？と思ってみたら、「努力の跡」が残っていました。ピッカピカで、すごいなあと思いました。私も頑張りたいです。～

こんな心構えで清掃に向かってくれているのですね。きっとこの生徒には『トイレの神様』が宿っていて、美しい心が育っているんです。そして、それぞれの清掃分担で、それぞれの生徒諸君に『〇〇〇の神様』が宿っているんでしょう。

卒業に向けて、進級に向けて、ひとりひとりの思いが「清掃」に寄せられ、素敵な有終の美を迎えようとしています。

《 祝 平成 26 年度児童生徒教育委員会表彰 ソフトボール部 》

昨年度に引き続き、ソフトボール部の皆さんが、「平成 26 年度 児童生徒教育委員会表彰」を受賞しました。

教育委員会表彰の趣旨は「全国規模の大会等において、特に優秀な成績をおさめた児童生徒の皆さんの栄誉を讃えるため」とあります。ソフトボール部の皆さんの日頃の精進と、全国大会第 3 位の実績が認められたものです。

近隣学校では「信里小学校緑の少年団」「裾花中学校女子バレーボール部」「長野西高等学校バトン班」「長野日本大学高等学校弓道部」等の小・中・高校の名前が連ねられています。表彰は 3 月 24 日（火）11:00～、県庁講堂にてあります。

《 銀河の中に息づく心 ♪ ～第 3 回生徒総会より～ 》

6 日（金）には第 50 代生徒会による第 3 回生徒総会が行われました。各委員会から活動報告を行い、その後質疑応答に入りました。

「校外風紀委員会へ質問です。違反駐輪場 0 を目指すにはどうしたらいいでしょうか？」「今年行った〈ありがとう運動〉を継続してってください」「清掃態度改善に向けてどのような対策をとっていきますか。」「整美委員会は仕事がたくさんあって大変ですけど、頑張ってください。」「笑顔溢れる学校と 50 周年に向けて、より良い生徒会を創ってってください。」「・・・等々、多くの質問する生徒が並び、応答と激励がなされました。

最初は一問一答であった交流が、何回か続くうちに、それだけでは満足できなくなってきました。深く知りたくなります。だから、もう一度聞き直す事になります。言葉のやりとりが少しずつできます。このことがとてもいい。「応援委員会に質問です。応援をしっかりと覚えるためにどのようにしますか？」「質問が聞き取りづらかったのもう一度教えてください。・・・はい、先ほども言いましたが、放送等で応援歌を流して覚えていてもらいます。」「ありがとうございました。頑張ってください。」

全校生徒が互いの考えを尊重し合った上で、違いを主張したり、認め合ったりする機会が、この生徒総会です。そして 3 年生が送る温かい激励の言葉を受けて、さらに下級生は上級生を憧れの対象と見ることに繋がります。

続いて生徒会長の高野さんは第 50 代生徒会スローガン〈Legend～新たな伝説を魅せる刻（とき）～〉を伝えてくれました。この生徒総会を受けて、春からの第 50 代篠西中生徒会が本格的にスタートしました。

～ ～ ～ ～ ～

「卒業ソング」にちなんで・・・「♪僕らはきっと待ってる 君とまた会える日々を♪」で歌い出す森山直太郎さんの「さくら」があります。歌詞は「♪さくら／さくら／ただ舞い落ちる／いつか生まれ変わる瞬間（とき）を信じ／泣くな友よ今／惜別の時／飾らないその笑顔で／さらば友よ／またこの場所で会おう／さくら舞い散る道の／さくら舞い散る道の上で♪」と最後が締めくくられます。

布施五明の桜はもう少し時を待たなくてはならないのですが、茶臼山に見守られての中学校グラウンドから桜吹雪舞う中での美しい校舎が、今から目に浮かびます。

桜待つ空の下、「658 の stories ～光り輝く永遠の思い出を～」をそれぞれ創り上げ、見事に自分色に染め上がった生徒諸君ひとりひとりが、溢れかえるような希望と夢を抱えて進級に、卒業に笑顔で向かっていきます。

そしてたくさんの可能性に満ちた 4 月を、ひとりひとりの若者諸君が迎えることになります。

・・・春がゆっくりと巡っていきます。

